

まちづくり全般 建築物の保存問題全般

埼玉県越谷市

ことのは 越ヶ谷 蔵のある街づくりプロジェクト

原風景を今に残す。

埼玉県越谷市は旧日光街道の通る歴史ある街。そのため歴史的な建造物も多く見ることができた。しかし開発が進む中で古き良き景観は失われつつある。そんな地に江戸時代末期に建てられた「蔵」が現存する。本プロジェクトはその蔵を修繕し、街のシンボルとなるように配し、新築4邸と合わせてそこにある原風景を残していくことをコンセプトに置きスタートした。かつてその一角は、長い樹齢を持つ松と内蔵と米蔵、粕蔵の三棟の蔵、そして灯籠などが並び、まるで江戸末期から時が止まっているかのような不思議な印象を醸し出していた。米蔵と粕蔵は、解体し残った内蔵を様々な工法を用いて現代に蘇らせた。生まれ変わったその蔵は地域活性化の拠点であると同時に分譲地内の住民、さらには近隣や地域の方々のコミュニティ創出の場となっていく。この地域にはまだ築百年を超える建物が散在している。本プロジェクトが手掛けた蔵もその一つだ。このプロジェクトにおいて重視したのは蔵を取り壊し、新たに何かを建てるのではなく、逆にただ残ただけでもない。そこにある歴史とデザインを継承していく中で新たな付加価値を見出し、さらに普遍的な価値へと発展させていく。それが真の意味で「原風景を今に残していくこと」だと私たちは捉えたのである。



応募者代表

広川 昇
株式会社 中央住宅
戸建分譲設計本部

“ことのは 越ヶ谷”プロジェクトメンバー

[企画設計]
池ノ谷 崇行

[実施設計]
町田 純一・外川 真伍・後藤 望

【蔵を未来に残す理由】

埼玉県越谷市に本社ビルを持つ株式会社中央住宅は、育ててくれたこの地にお返ししようと微力ながら地域文化にも寄与してきました。越谷の古き良き街並みは、蔵がこれからもあり続けることで受け継がれていきます。私たちは建築に関わる企業として越谷に残る歴史的建造物である蔵を現在に蘇らせ、それを地域の財産として次の世代に繋いでいくことで地域の文化に貢献していきたいと願っています。

越谷市の歴史を守り未来へ継ぐこと。

2013年9月、蔵との出逢いを果たしたメンバーは、歴史的価値のあるこの蔵を経営理念に基づき未来へ継承することを決めた。時期を同じくして越谷市による景観計画が施行。それは地域固有の歴史的資源を活かし、調和のとれた街並形成を図るというもので、旧日光街道沿道特定地区も制定された。市の方針と中央住宅の想いが合致した。市との協議を重ね、蔵を半永久的に残すために市へと寄付することを決定。積み重ねられてきた蔵の歴史に心から敬意を払い、今回のプロジェクトは本格的に幕を明けた。



時をかけて紡ぐ「ことのは」の歩み。 2013
2013年、このプロジェクトが始まった。

このプロジェクトが目指したのは、歴史の遺産として蔵を復元するだけではなく、あの頃のように人の暮らしと関わっていく「生きた時間」を与えることでした。そのことで止まっていた蔵の歴史は、再び稼働し時を刻み始めます。また蔵は街や人と共に生き続けることができます。2013年、蔵が持つ歴史的な価値を未来へつなげる普遍的価値へ発展させていくためにこのプロジェクトはスタートしました。



かつて生活のために利用されていたと思われる水瓶。その味わいのある風貌から、この水瓶が使われていた古き良き時代の趣が伝わってきた。

現代では貴重な大型の御影石が庭に敷き詰められていて、情緒ある風景がそこにはあった。



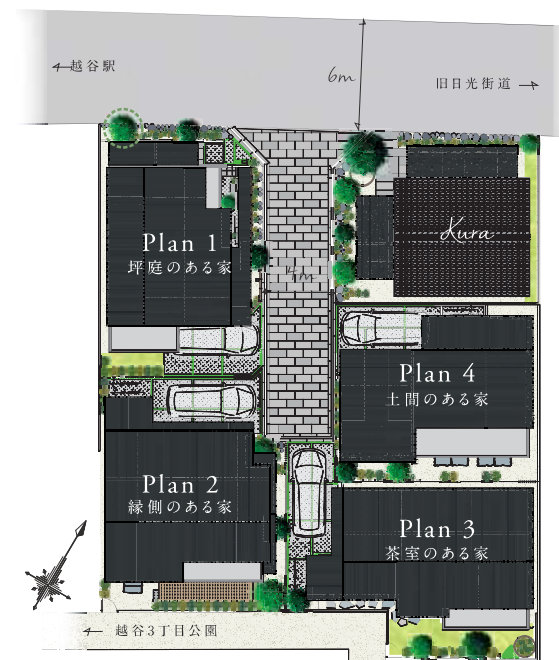
曳家工法を用い蔵を移動。そして蔵の補修工事に着手。

曳家という工法を用いて蔵を所定の位置まで移動させます。100t以上ある蔵をジャッキアップさせ鉄骨のレールの上を走らせます。近隣の越ヶ谷小学校の3年生120人の児童に課外事業の一環として曳家体験をして新たにつくった基礎の上に載せ土台と基礎を連結させました。そして2015年には、足場を組みいよいよ補修工事に着手。既存の壁の表面を剥がし新たな漆喰の壁として生まれ変わりました。

2014 & 2015



こうして誕生した、美しく広がるその佇まい。



個を主張する素材。



屋根



街路灯



格子



カースペース洗い出し